

## 学校図書館における読書会を通した学びへの支援

森澤 ひかる

本研究では、児童生徒の主体的な学習態度を育むための活動として読書会に焦点を当て、学校図書館における読書会の現状と課題を明らかにし、学校図書館における読書会を通した学びへの支援のあり方を考察することを目的とした。

文献調査の結果、今日の知識基盤社会において、学校教育が求める「生きる力」は、主体的な学習によって育まれることが明らかになった。学校図書館には主体的な学習活動や読書活動を指導する役割がある。その活動のひとつに、読書会がある。読書会とは、指導者のもとで行われる集団による読書活動であり、文学以外にも幅広いテーマが設定される。読書を個人の活動にとどめることなく複数で感想や意見を出し合うことによって、参加者の読書生活を豊かにし、参加者の自発的、主体的な態度やコミュニケーション能力を養うことが期待されている。しかし、こうした読書会によって主体的な学習が効果的に支援されているかは、十分明らかにされていない。

そこで、聞き取り調査では、読書会を実施した実績のある読書活動優秀実践校 5 校に勤務する学校図書館担当者に対して、学校図書館における読書会の現状と課題について聞き取りを行い、結果を分析、考察した。その結果、以下の 4 点が明らかになった。(1) 読書会の事前準備においては、多くの学校で指導案を作成していないという現状があり、読書会の位置づけを明文化して計画的に指導することが課題と考えられる。(2) 読書会の目的については、読書に関わる技能の習得だけではなく、様々な目的が設定されている。特に、多様性の理解については多くの肯定的な意見があった。そのためには継続した実施や、参加者への教師の積極的な声掛けが課題になると考えられる。(3) 読書会の当日の実施は、司会者があらかじめ質問を考えておくことで、ねらい通りに実施できる。その際には、参加者に寄り添った内容を考え、その場の状況に応じて適切な対応をすることが重要である。(4) 読書会の事後評価は、児童生徒の反応は概ね肯定的であり、読書会の目的の項目で尋ねた期待される効果に合う感想が得られている。読書会で身につく能力はすぐ培われるものではないので、長い目で見て先につながる指導が課題と考えられる。

これらの結果から、各学校いずれも特徴的な読書会を実践しており、読書会によって期待されている思考力・判断力・表現力、豊かな心、言語能力、すなわち生きる力の向上に効果が見られることが明らかになった。

したがって、学校図書館において読書会を通して学びへの支援を行うことは有効であると考えられる。今後の課題として、司書教諭など学校図書館担当者をはじめとした教師が、豊かな心を育む自由な読書活動としての視点だけではなく、児童生徒の主体的な学習活動としての視点も持って、読書会を行うことが不可欠であると考えられる。

(指導教員 平久江祐司)